

スタジオジブリの長編アニメーション「ハウルの動く城」「アーヤと魔女」の原作者であるダイアナ・ウィン・ジョーンズさんを紹介する連載は、今回で最終回となります。第1回は宮崎駿監督が語る作品の魅力、第2回は本の編集を担当された徳間書店の上村さんに出版までのあれこれを伺い、最後は『アーヤと魔女』をはじめ、ジョーンズ作品を数多く訳された田中薫さんに作品のおもしろさを紐解いていただきました。

田中さんは「ハウル」を原書で読んだとき、あまりにおもしろくて「この本がすごい!」と上村さんに熱く語られたそうです。文章からは作品の魅力とともに、田中さんの熱い思いが伝わってきます。

ダイアナさんの著作は日本でも多く出版されています。この連載が本を手取るきっかけとなれば嬉しく思います。



季刊トライホークス 2022年 | 66号

発行日……2022年2月28日 | 発行人……中島清文

発行所……徳間記念アニメーション文化財団

東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館

編集……石光紀子 塚原瑞穂 | デザイン……川島弘世

印刷……図書印刷株式会社 | 非売品

本棚より

トライホークスに置かれているおすすめの本を紹介していきます。
トライホークスの本棚の中の一冊から、みなさんの本棚の一冊にさせていただけたら嬉しいです。

砂の妖精

□ ロンドンからずっと離れた田舎に引っ越してきた5人の兄弟姉妹。ある日、砂利堀り場で遊んでいると、「砂の妖精」サミアドと出会います。

大昔から生きているサミアドは、1日に1つ、日が暮れるまでの間だけ願いを叶える力を持っています。子どもたちは、「お金持ちになりたい」「空をとぶつばさが欲しい」と夢のような事を願いますが、それがもつて大変な目にあうのです。

彼らの願い事は、誰もが一度は考えることばかり。お願いによって災難にあう子どもたちを見ていると、何だか人ごとには思えません。ある時は「花のようにきれいにして!」とお願いし、別人のように美しくなってしまったために、周りの人に気づいてもらえず、とても寂しい思いをします。サミアドに出会い全てが望み通りになると思っていたのに、蓋を開けてみると本当に望んだこととは違う方向に物事が進んでいってしまうのです。

そんな子どもたちにサミアドは、「むかしの人間は、毎日つかう地道なものしかほしがらなかった。」「わるいことはいわん。なにか、わけのわかったことをのぞめ。」と忠告します。しかし彼らはサミアドの言葉も何のその。次こそはうまくやれるはずと、お願いのために頭をひねるのです。どんな災難にあっても子どもなりに知恵を絞り、なんとか切り抜けようとする姿はおもしろく、頼もしくさえあります。

日が暮れて魔法が解け、家に帰るまでの1日の中で目一杯真剣に冒険する子どもたち。その姿は、どんな時代の子どものも当てはまるのではないのでしょうか。



砂の妖精

著者…E・ネスビット
訳…石井桃子
福音館文庫 825円



松岡達英

Tatsuhide Matsuoka

夢中になって読んだ本

日本だけでなく、自然観察をしながら世界各地をめぐり、絵本を制作してきた松岡達英さんに本を紹介していただきました。松岡さんが小学生、中学生の時に出会った本は、新たな世界への扉でした。美術館の図書室にある『ぼくのロボット大旅行』『地面の下のいきもの』（福音館書店）も、すぐ近くにいる小さな生き物や、まだ見たことのない世界を見せてくれる絵本です。手をのばせば届くところにある扉、開けてみるのはいかががでしょうか。

* * * * *

戦後7年、小学校に入った頃の新潟県長岡は都会と比べ復興は遅れていて、文化の差は大きく、大空襲で壊された街には、高い建物もなく家の居間に寝転んで、2kmも離れている駅のクレーンやSLを観ることができました。3年になった頃、図書室ができました。蔵書は少なく、生徒による廃品回収と、稲刈り前の水田で行うイナゴ獲り（採った100kg近いイナゴは、校庭に据えられた大釜で茹でられ食料や肥料として業者に引き取られていた。）によるお金などで少しずつ増えていきました。

でも私の好きな自然科学系の本は皆無でした。5年生の時、ついに私の夢を掻き立てる本『昆虫界のふしぎ』中西悟堂著、ポプラ社刊に出会いました。今まで家から10km位の範囲の昆虫が観察対象だったのに、突然世界の昆虫たちが出現して、興奮の極地に立たされました。南米のヘラクレスカブト、アフリカのゴライアスツノカナブンやスカラベと、私の頭に大量の知識が流れ込みはじまりました。6年生の夏、終戦前に出版された極めて印刷の悪い、アルフレッド・ウォーレス著『熱帯の景観』の訳本を図書館で見つけました。子ども向けではないので、漢字には苦労しましたが、マレー諸島、ニューギニア、アマゾンの熱帯雨林帯の知識が加わり、夢の大型昆虫たちが、こんなところに生息しているのかと、現実感が増してきま

した。著者のウォーレスはダーウィンと共に進化論を提唱していたのですが、貴族と平民、この身分の違いもあり、ダーウィンの「種の起源」のみがこの世に残りました。昆虫の採集人として、アマゾンやマレー諸島、ニューギニアなどを探検し、マラリアにかかったりしながらも熱帯の昆虫や鳥類、植物の研究に専念し、業績は残せなくとも、自然愛に溢れたウォーレスが好きになりました。ウォーレスの名を残すものとして、バリ島とロンボック島の間豪州区と東洋区の動物分布上の境界線を学会に発表したと知り、学校で使っている地図を開いてみると、ウォーレス線の名で記載されていました。中学に入学してすぐ、図書館の新購入図書の中に『世界の蝶』を発見しました。6,000円もする高価な本で、ウォーレスが採集した時に、大興奮して熱を出したという黄金色のトリバネアゲハやアマゾン川流域で見られるアグリアスなどが原寸写真版で載っていました。索引を調べると、ウォーレスの名の付いた種が4つもあり、採集したウォーレスが羨ましくなりました。そして将来は大好きな自然と得意な絵を活かして、自然絵本を作り、お金を貯めて、トリバネアゲハの舞うニューギニアに採集旅行をするのだと、決意しました。尚この図鑑の出版社は北隆館でした。夢は思い続けると叶うもので、グラフィックデザイナーになれました。22歳の頃、新宿の画廊で

グループ展をやっている時に、通りがかりに立寄ってくれた女性編集者に声をかけられました。何と彼女は『世界の蝶』の出版社、北隆館の編集者でした。これが縁で、私の最初の絵本は北隆館で出版されました。その後、この絵本の関連で、新聞連載などが始まり、気が付くと、ニューギニア旅行の費用が貯まり、28歳の正月、パプアニューギニアの地に立っていました。滞在の中心は中央山岳地帯の村ワウで、ここでの1ヶ月は部屋付きの少年と、トリバネアゲハやカザリシロチョウなどウォーレスが追いかけていたであろう昆虫を求めて熱帯の森や山で夢のような日々を過ごしました。現地の人々は腰ミノだけの裸同様の生活で、石器時代から現代に急激に変化しているところでした。ニューギニアの旅行記は滞在中から新聞に連載しました。その後も仕事と採集旅行を繰り返す生活をする中、海外の出版社からの依頼で「ウォーレスの足跡を求めて」という企画で、写真家、翻訳家、ウォーレス研究をしている学生の4人で1ヶ月、セレベスからアラフラ海の島々の探検に行きました。昆虫や植物の採集や観察をしたりしていると、ウォーレスがすぐそばにいる様に思う不思議な旅でした。

小学校の図書室で出会ったウォーレスがここまで影響するとは、旅の途中、「この象虫、彼もきっと見つけていた」と、タイムスリップをしながらの旅でした。この後、ウォーレス研究家の学生、新妻昭夫さんは、ウォーレスの著書『マレー諸島』を翻訳、そして私たちの探検も役立った『種の起原をもとめて ウォーレスの「マレー諸島」探検』を出

版しました。ちなみに、この本のカバーと見返しに私はウォーレスに感謝を込めて絵を描きました。これらの本の挿絵は100年以上前に作られた木口木版の素晴らしい絵、あの小学生の私を虜にしたのと同じ絵が入っていました。他にも少年時代に心をときめかした本は、ジュール・ベルヌの『十五少年漂流記』や『地底旅行』などがあります。いずれも空想世界が多いので、リアリティのある探検記の方が好きでした。仕事上、この人以上には描けないと思っているのはリンセンマイヤーで、著書『INSECTS OF THE WORLD』は、心の底から昆虫を愛している人の絵だと思っています。人間がこれ程、自然を壊した今日、穏やかでゆったりとした時間が流れるジャングルは、もう見られません。もうそろそろ人生も終わりそうなので、もう一度ジャングルに立って、素敵な時間を過ごしたいと思っています。

まつおか なついで

1944年新潟県長岡市生まれ。北海道から沖縄までの日本各地を始め、中南米、アラスカ、オセアニア、東南アジアなど広範にわたる自然観察の旅をしながら、多数の自然科学の絵本を描いている。『すばらしい世界の自然シリーズ』（大日本図書）で厚生省児童福祉文化賞、『熱帯探検図鑑』（偕成社）で絵本にっぽん賞、『ジャングル』（岩崎書店）では日本科学読物賞、厚生省児童福祉文化賞を受賞。著書は『ぴょん』（ポプラ社）、『昆虫の生活』（幻冬舎）、『あまがえるりょこうしゃ』（福音館書店）など多数。

トライ
ホークス
の本
ほくの
ロボット大旅行
作…松岡達英
福音館書店 1,430円



[..... 夢中になって読んだ本]



昆虫界のふしぎ
少年博物館2
著者…中西悟堂
ポプラ社 絶版



熱帯の景観
著者…ウォーレス
訳…谷田専治
創元科学叢書 絶版



原色図鑑
世界の蝶(復刻版)*
共著…
中原和郎、黒沢良彦
北隆館 33,000円



種の起原をもとめて
ウォーレスの
「マレー諸島」探検
著者…新妻昭夫
朝日新聞社 品切重版未定

- ◆マレー諸島上下
著者…アルフレッド・R. ウォーレス
訳…新妻昭夫
ちくま学芸文庫 品切重版未定
- ◆十五少年漂流記*
作…ジュール・ヴェルヌ 訳…波多野完治
新潮文庫 440円
- ◆地底旅行*
作…ジュール・ヴェルヌ 訳…平岡 敦
岩波少年文庫 924円
- ◆INSECTS OF THE WORLD
著者…Walter Linsenmaier
McGraw-Hill Book Company

*印は、松岡さんが選ばれたタイトルを元に、現在出版されている書籍を掲載しました。

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ

魔法の紡ぎ手

「ハウルの動く城」と「アーヤと魔女」というスタジオジブリの長編アニメーション2作品の原作者、ダイアナ・ウィン・ジョーンズは、英国ファンタジーの女王とうたわれています。はじめて読んだときから、すっかりファンになった私。まさかその後、翻訳者として関わり、実際にお目にかかる幸せにも恵まれるとは、思ってもいませんでした。

ダイアナさんの作品は、ひとことでいうなら、奇想天外! 本を開けば、斬新な発想の物語世界へ、ぐいぐいひっぱりこんでくれます。ご本人にはその世界の細部までがわかっていたようで、描写はとてモリアル、かつ、むだがありません。

最後にはたいいてい、あっとおどろく事実が待っています。そうきたか! と舌を巻きながら、わくわくした気分のまま、本を閉じることができます。読むたびに、なにかしら新しい発見があり、あきることがありません。

そして、ユーモア。多くの作品では、主人公たちがどうしようもなくこまった状況におちっている場面でも、思わず笑ってしまうようなことが起きます。もちろん、当人たちは真剣です。でも、たとえば、かくれていなければいけないときに、足がつってしまうのです……!

すべてのキャラクターの描写にうそっぽさがなく、とらえかたが一面的でない点も魅力のひとつです。読むほどに、それぞれの立場や考えかたが見えてきます。悪人もいますが、真の悪の権化はともかくとして、その人物がそのようになってしまう背景がうかがえるように描かれています。

さまざまな古典、民話や神話を上手に取り入れている作品が多いのも特徴です。たとえば「ハウル」の原作である『魔法使いハウルと火の悪魔』（徳間書店）は、グリム童話など、主にヨーロッパに伝わるおとぎ話にそっくりの世界が舞台になっています。そこではひとまたぎで34kmも進めるといふセリーグ靴が「実在」しますし、3人きょうだ

いのいちばん上の子はたいいてい不幸になると「信じられて」います。さらに、私にとってうれしいことに、この作品には、前号で夢中になって読んだ本としてご紹介した、『オズの魔法使い』（早川書房）を思わせる要素がちりばめられています。たとえば、かかしに、犬に、べつの世界からやってきた魔法使い、そして心臓……。また、オズのわるい魔法のひとは「西（West）の魔法使い」ですが、「ハウル」には「荒地（Waste）の魔法使い」という、英語の言葉のひびきかっている魔法使いがいます。

「ハウル」はそのうえ、固定観念をあさりとひっくり返してくれるダイアナさんらしい展開になっていて、大好きな作品です。

ダイアナさんの作品はみな、それぞれに好きなポイントがありますので、どれが一番好きとはいえません。ただ、個人的な思い入れの強さでいえば、「大魔法使いクレストマンシー」のシリーズには、ひときわ愛着があります。特に、最初に訳させていただけた『クリストファーの魔法の旅』。主人公が、何度命の危険にさらされてもひょうひょうとしていて、ゆかいなのです。一文一文がいとおいしいです。

ほかには、『呪われた首環の物語』（徳間書店）が、読み手の思いこみに気づかされるおもしろさがあって好きです。ダイアナさんお得意の多元世界の描写と、魔法のとらえかたが楽しい『花の魔法、白のドラゴン』（徳間書店）も……ならべだしたら、きりがありません。日本語版の表紙やさし絵の多くが、佐竹美保さんのもうれしいです。

ダイアナさん独自の神話世界がみごとに作り上げられた「デイルマーク王国史」（東京創元社）4部作も、またちがったおもむきで、愛してやまないシリーズです。第3部には、言葉を織りこんで魔法のローブを作る少女が登場します。私には、この少女がダイアナさんに思えてなりません。ダイアナさんはもう、この世を去ってしまいましたが、多元世界のどこかで生きつづけて、新しい物語を紡いでいるのかも、なんて想像して、さびしさをまぎらわせています。



クリストファーの魔法の旅

作…ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
訳…田中薫子
絵…佐竹美保
徳間書店 1,870円

（翻訳家 田中薫子）



ダイアナさんと
田中薫子さん
2005年撮影